

第7回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション講評

審査委員長 東京大学分子細胞生物学研究所 高次構造研究分野
准教授 伊藤 啓

7回目を迎えた今回のコンペも非常に多数の応募があり、レベルの伯仲した作品が並んで審査が難しかった。パンフレット、地図・案内図、掲示サイン、ポスター、カレンダー、パッケージなどそれぞれの分野で、メディアユニバーサルデザインの手法がだいぶ成熟化しており、より完成度の高さが求められるようになった。その反面、これまでの発想の枠を突き破る意外さを秘めたユニバーサルデザインの提案が少ない印象を受けた。日々開発される製品の品質を認定する業務とは異なり、コンペは今後のユニバーサルデザインの新しい流れを作る実験的な場でもあるので、柔軟なアイデアの提案を期待したい。

コンペの審査では、コンセプトが良いのに完成度が低かったり、逆に完成度は高いがコンセプトは特に新しくなかったりするものは、高い評価をつけにくい。前者のような作品を選びやすくするために、今後は総合的な評価だけでなく、アイデア賞のようなものを設けてもいいかもしれない。

作品の中で、外国人むけの対応に工夫した例が増えてきた。単に日本文化やマナー、防災情報などを紹介するものだけでなく、ゲームや便利グッズにも外国人対応を意識した作品が出てきたことは喜ばしい。英語、中国語、韓国語の対応だけでなく、ポルトガル語の対応も増えてきたのは、在住者の多さを考えると好ましい傾向である。外国人むけの日本語教育が普及し、漢字は読めなくてもひらがなは理解できる外国人が増えているので、英語などの外国語表記を入れるスペースがないときには、フリガナを入れるだけでもかなり有効である。子供だけでなく外国人対応の意味でのフリガナの普及は、今後ぜひ積極的に進めたい。

少し残念なのは、学生の応募作品に少し元気がなかったことである。これまで学生の作品には、多少荒削りでも新鮮な発想と意外な着眼点に感心させられるものが数多く見られたが、今回はそういう作品の数が若干減っていた。単なる偶然なのか、ユニバーサルデザインの工夫を考えるよりも商品開発などの企画をより面白いと考える学生の意識の変化といったものがあるのかは、現時点では判断できないが、来年以降はぜひ伸びやかな発想の意欲的な応募作品が増えると喜ばしい。

学生の作品に応募点数の割に振るわなかった理由のひとつには、せっかく学校の授業で作った課題作品をコンペに応募してくれているのに、課題のテーマ自体がユニバーサルデザインを競うのにあまり向いていないものになっている例が、いくつか見られたことがあるかも知れない。色や文字などメディアユニバーサルデザインの基礎的な忘れてはいけない部分でミスをしている作品も、まま見られた。今後は、よりユニバーサルデザインのアイデアを盛り込みやすいテーマを授業の課題にしてもらおうとか、長い時間手をかけた卒業作品を応募するとかの仕組みが作れると良いかもしれない。

経済産業大臣賞（一般）

株式会社長英 益永 貴広（東京都）

「AED 使用時 患者保護シート」

○工夫点

近年町で AED をよく見かける様になりましたが、AED の講習を受けていても使用する機会もないと、実際に使用ができるかわからないと悩まれる方も多いと思います。

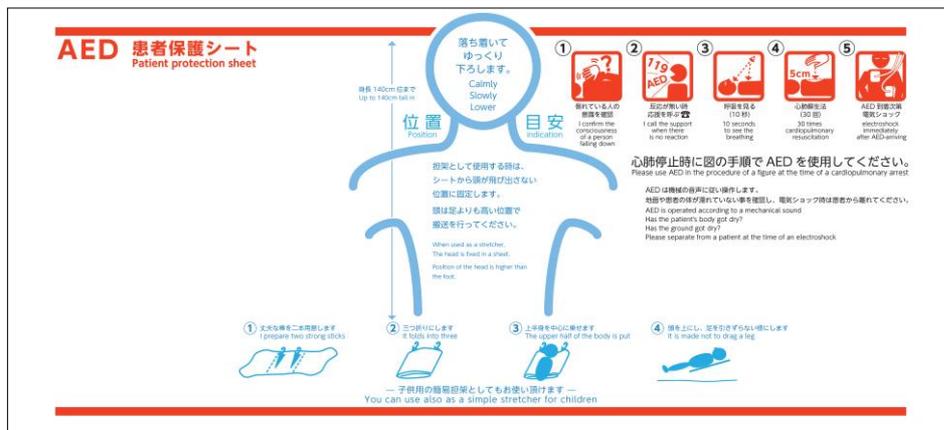
そこで簡単に使用できるシートがないかと考え、レジャーシートのようなものであれば、便利ではないかということで作成しました。

特徴として、布の地色と赤のラインで視認性がよく、AED 使用中ということが周囲からもはっきりわかり、通行車などから身を守りやすくなります。本体にも使用方法は書いてありますが、ピクト化することで手順を脳内で整理しながら、落ち着いた作業が可能です。燃えにくい素材のものを使用し破れにくく丈夫ですが、はさみ等で簡単に切れるのできれいなガーゼがあれば包帯の代わりにもなります。

また、患者や心肺蘇生法を行っている方に、うちの役割で使用する下敷きも作成しました。

○審査委員長講評

AED の普及が進んできたが、緊急時に不慣れな人に使い方を分かりやすく示すための効果的な方法が課題になっている。この作品は、「倒れている人を保護するために、地上に広げたり、体を包んだりするシート」という実用的なアイテムを考え、シートの表面に大きなピクトと分かりやすい表現で AED の使用法の説明を記している。遠くからも視認しやすい色づかいで緊急事態が起きていることを周囲に示し、簡易担架としても使えるように工夫している。命に関わる状況で、不慣れな人が救護を行わざるを得ないときに欠かせない手助けを、AED の機械とセットで提供することを提案している。今後は、AED 本体をケースに入れて設置するだけでなく、こうした「AED をより効果的に使いこなすためのアイテム」をセットにした形で普及させる方策を考えることが重要だろう。



経済産業大臣賞（学生）

常葉大学 篠原今日子（静岡県）

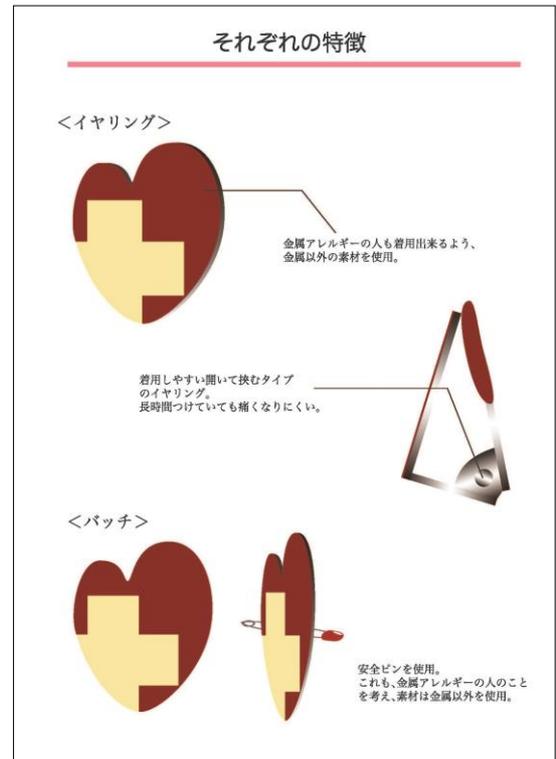
「心のコミュニケーションアクセサリとストラップ」

○工夫点

「見た目には分からない疾患を持っている方々も快適に過ごすために」というのがコンセプトです。アクセサリをつけることで、疾患を持っていることを周囲の人々に分かってもらい、お互い「心でコミュニケーションをとる」のが目的です。目立つ赤を使い、色弱の方にも分かりやすいアクセサリとストラップにしました。

○審査委員長講評

難聴、ロービジョン、内臓の疾患など、外見は一般の人と変わらないのに体に不便を抱えている人たちは、自分に「障碍」があることを毎日のように周りの人に説明しないとらない。これは単に煩わしいだけでなく、自分の体の欠点を日々再認識させられることになり、精神的なダメージが少なくない。「説明しなくても周囲の人に気づいて欲しい」という当事者自身の願いから生まれたこの作品は、イヤリングや、メガネのフレームにつける小さなアクセサリやストラップを、難聴やロービジョンであることを周囲に示すサインにしようというアイデアである。アクセサリのデザインの完成度には工夫の余地があるが、本作品が提案するコンセプトを活かしながら、シンプルで誰にでもつけやすく、かつどんな人にも趣旨が分かりやすいものを、さらに工夫できるとよい。この企画の実現のためには、アクセサリを当事者に配布する仕組みや、サインの意味を広く周知させるための大規模な啓発活動が必要になる。すでに同種の発想で、外見からは分かりにくい妊娠初期の人が目印に使うシールが広がりを見せているので、同じような取り組みを期待したい。



優秀賞（一般の部）

三和綜合印刷株式会社 村上寛樹（広島県）

「ユニバーサルファイル」

○工夫点

右利き、左利きどちらの人にも使いやすいクリアファイルを作りたいという思いから、指ぬき部分（切り抜き）を表面と裏面でずらして配置し、なだらかで美しいカーブが重なった時にクロスするように形を設計しました。また各縁に判別しやすいピンクとブルーを配色し、クロスした部分はネイビーになるよう視認性を高めたデザインが特長です。



○審査委員長講評

市販のクリアファイルは、右利きの人には使いやすいが左利きの人には指ぬきの位置が不適切で開きにくい。このクリアファイルは、右利きにも左利きにも使いやすいように単に指ぬきを2ヶ所に設けただけでなく、2つの指ぬきを異なる色で縁取りして重なる部分が別の色になるように工夫し、デザインのアクセントとしている。小さな工夫だが左利きの人には大変ありがたい配慮である。

優秀賞（一般の部）

株式会社野毛印刷社 制作課制作係（神奈川県）

「外国人旅行者のための英語版地震対応マニュアル（Disaster Prevention Guide）」

○工夫点

地震の多い日本へ、来訪してくれる海外のお客様へ向け、おもてなしバージョンの地震対応マニュアルを作りました。安全で快適な旅のおまもりとして、おみやげとして、そして、ちょっぴり役立つものと考えました。

○審査委員長講評

防災啓発パンフレットや外国人むけの観光案内パンフレットが増えてきたが、形態は一般的な冊子型が多く、無数のパンフレットの中に埋もれてしまったり、いつも持ち歩くには不便だったりする。この作品は防災関係の簡単な避難マニュアルと会話帳を、「カウンターなどに置かれている無数のパンフレットの中から思わず手に取りたくなるように、富士山をかたどった特徴的な形」「万一の状況になったときにユーザーが確実に携帯しているように、どこにでもしまえる小型のサイズ」という工夫によって、ターゲットである外国人観光客が非常時に確実に活用できるように配慮している。



優秀賞（一般の部）

不二印刷株式会社

永井 佑佳、中山 卓哉、大蔵 有紀（大阪府）

「しゅわっとかード」

○工夫点

「しゅわっとかード」とは、「手話ってなんだろう…？」をキッカケに、遊びながら手話を知ることができるカードです。言葉のカテゴリーは8種類（あいさつ・きもち・時・色・人称・行動・場所・もの）、キャラクター8種類、色だけでなく柄でも分かりやすくカテゴリ分けをしています。しゅわっとかードの遊び方も提案し、説明書に記載しています。すぐに遊べるようイラストで分かりやすく表現しました。



○審査委員長講評

楽しみながら手話を覚えるためのカードゲーム。よく使う言葉を挨拶、感情、日時、色、人称、動詞、場所、モノの8つのカテゴリーに分類し、それぞれのカードを異なる色と模様、登場人物の組み合わせで、分かりやすく区別している。ケースもカードを取り出しやすく工夫されており、ゲームもルールを覚えるのは簡単な割に実際にプレイするのは難しいように、よく考えられている。

優秀賞（学生の部）

常葉学園大学 篠原今日子（静岡県）

「つながるブック」

○工夫点

目が見えない方や耳が聞こえない方々が、手話などを使うことなく、よりスムーズにコミュニケーションをとるために使うカードです。「感情カード」「あいさつカード」「場所カード」の3種類があり、それぞれの状況に応じて使い分けます。ピクトグラム、ひらがな、英語・中国語・韓国語表記、点字があり、様々な方々に対応出来るようにしています。また、背景と文字色に明度差をつけて弱視の方にも見えやすいカードにしてあります。



○審査委員長講評

難聴や目が見えない人とのコミュニケーションのための会話帳と、英語、中国語、韓国語などの外国人むけのコミュニケーションのための会話帳は、障害者と外国人で対応を管轄する官庁も異なり、従来は別々に考えられがちであった。この作品は両者を1つにまとめ、どんな相手でも使えるように工夫されている。日・英・中・韓の多国語表示に加え、目がまったく見えない人むけに点字を備えるとともに、黒地に白文字の高いコントラストでロービジョンの人にも見やすく配慮されている。挨拶、場所、病院関連の用語をカバーしているが、「しゅわっとかーど」のように対応場面をもっと増やしてもよいかも知れない。

優秀賞（学生の部）

静岡デザイン専門学校 小林 鞠江（静岡県）

「時刻表をもっと見やすく、わかりやすく！」

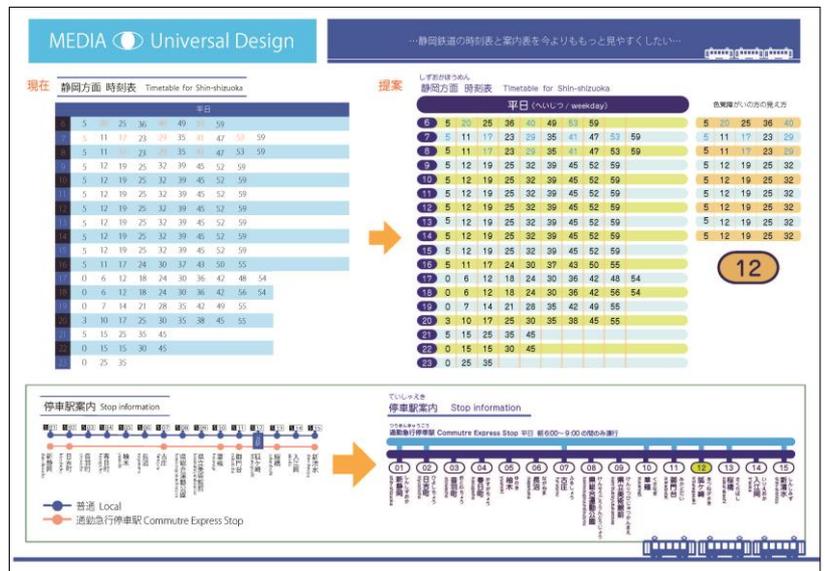
○工夫点

ターゲット層に縛られることなく、誰でもわかりやすく見やすくなるように、色や文字に気を使いました。全部にふりがなをふっているのもポイントです。

○審査委員長講評

実在の鉄道会社の停車駅案内や料金表、時刻表のサインを、分かりやすくデザインし直したもの。一部の鉄道で

こうした取り組みは既に行われているが、この作品はそれらプロのデザイナーの手によるものと比べても、かなり完成度の高いものになっている。こうした具体的提案を実現させることは、地域の活性化にもつながり、鉄道会社のイメージ向上にもなるので、ぜひ期待したい。



優秀賞（学生の部）

芝浦工業大学 牧野貴大（埼玉県）

「MUD 色紙」

○工夫点

スペースの把握が難しく、ぎゅうぎゅうに詰まったり、逆に大きなスペースが空いてしまうことのある色紙に、柄の役目も果たす 1cm × 1cm のマスを印刷することでスペースの把握をしやすくしました。また、色弱者の方でも見分けられるように青系に見える色、黄色系に見える色の 2 色で塗りわけた「粋・雅・紫陽花・桜」の 4 種類を用意しました。

○審査委員長講評

「真っ白い色紙に寄せ書きをする時に、スペースの配分が難しい」という誰でも感じる悩みを、上品に解決した作品。淡い色調の 2 色のマス目を 1 センチ間隔で入れることにより、お洒落な装飾模様のような雰囲気でありながら、方眼罫を引いたのと同じ効果を出している。4 つの配色が提案されており、見分けやすさに若干の差があるので、効果的なものを絞り込んでぜひ商品化したい。



佳作（一般の部）

大阪シーリング印刷株式会社（大阪府）

中嶋健一郎、村中くみ子、宮西 麻紀、長田 一成、佐藤 由実、大町 瑞穂

「わかりやすいお風呂のマナー」

○審査委員長講評

日本の公衆浴場の習慣に不慣れな外国人むけに入浴マナーを啓発するポスターは、多くの温泉や銭湯に貼られている。しかし脱衣所や洗い場、浴槽など場所ごとに異なる多様な注意点を1枚のポスターにまとめているために、覚えきれずに効果を上げていないことが多い。本作品は場所ごとに内容を分けたステッカーを用意することにより、それぞれの場面で必要なマナーのみを分かりやすく掲示する。日本語、ふりがな、英語、中国語、韓国語の多国語表記により、多様な客に対応しており、誰にでも分かりやすい色づかいと、とぼけた力士の絵柄によって、親しみやすさを出している。すぐにでも製品化した

佳作（一般の部）

大阪シーリング印刷株式会社（大阪府）

河澄香菜子、富田美奈子、池田 恒、籠谷 昌典、町田 愛子、坂本 綾香

「安全に遊べる花火のパッケージ」

○審査委員長講評

花火のパッケージはごちゃごちゃしたデザインのものが多いが、本作品はすっきりしたデザインで、花火の点火法などの分かりやすい説明イラストを添えている。厚手のビニール製のパッケージはそれ自体が消火用のバケツになるように工夫され、花火を立てるスタンドも附属するなど、細かな使いやすさをよく配慮している。安売りが多くコスト削減が至上命題となっている花火市場への実際の展開には課題があるだろうが、安全と使いやすさという「商品の質」をパッケージの方向から訴求したアプローチを評価したい。

佳作（一般の部）

合資会社垂井日之出印刷所 清水 健一、馬淵 智美（岐阜県）

「使える ピクトグラムシールブック」

○審査委員長講評

地図や案内図などの上に貼り付けるバリアフリー施設や非常設備のピクトサインのシール。シンプルで分かりやすいデザインを工夫し、シールの縁には白い余白を設けて、貼った際に周囲と区別しやすくしている。学校の授業などで活用することにより、啓発効果が期待される。禁止マークの赤と背景の黒いピクトが区別しにくい人がいるので、赤と黒の間に白い縁を入れるとさらに良くなる。

佳作（一般の部）

ベル印刷 株式会社 鈴木 敏（静岡県）

「エコエコ 3 ヶ月カレンダー」

○審査委員長講評

毎年多くの作品が寄せられるカレンダーだが、本作品は3ヶ月の連続表示、六曜や二十四節季、月齢、昭和や大正の換算年数の表示、予定の書き込み欄、2穴バインダーへの綴じ込み、などたくさんの細かな工夫を盛り込み、なおかつシンプルで分かりやすい外観を実現している。フリガナ、中国語、英語、ポルトガル語によって、子供や外国人にも使いやすく配慮されている。

佳作（一般の部）

川口印刷工業株式会社（岩手県）

浅沼 秀悦、神山 仁、細川 真、谷地 武留、帷子 修、高橋康介、吉田 和恵（株式会社トランク）

「障がいがある方たちの災害対応のてびき」

○審査委員長講評

災害対応の啓発パンフレットで、特に震災で問題となった障害者向けの対応を説明している。ページの背景を色分けして内容の違いを分かりやすくし、各部の色調も分かりやすく工夫されている。全ての文字にフリガナを入れて、子供や外国人にも情報が伝わるようにしている。

佳作（一般の部）

川口印刷工業株式会社（岩手県） 黒丸 健一

「見分けやすい回転寿司の皿の提案」

○審査委員長講評

回転寿司のお皿は多くの場合値段ごとに色分けされている。色だけでなく絵柄も変えてある場合も多いが、皿を積み重ねたときは絵柄の違いは見えにくい。お皿が区別しやすく色分けされていることは、お客さんだけでなく、勘定の際に短時間で皿の種類と枚数を数えないとならない従業員にとっても、とても重要である。本作品は、伝統的な寿司皿の意匠を活かしつつ、区別しやすい色と絵柄で種類を分かりやすく示している。さらに、安いものから高いものへと単に絵柄を高級風にするだけでなく、デザインにマッチした漢数字を入れることによって、値段の違いを分かりやすくしている。ぜひ実際のお店で採用して欲しいデザインである。

佳作（学生の部）

大阪市立デザイン教育研究所 池田 有花（大阪府）

「性犯罪防止広報リーフレット ～女性ファッション雑誌風～」

○審査委員長講評

大阪府警察が配布する性犯罪防止のリーフレットを学生が実際にデザインし、利用されているもの。女性に親しみのわくイラストで犯罪を防ぐための実用的な配慮を説明している。分かりやすい色づかいを工夫し、書体や文字サイズも工夫して文字と色背景の境界には白縁取りを入れることで、読みやすさに配慮している。細かい点にまで配慮した学生のデザイン力と、それを実際に配布物として具体化した府警の決断力・実行力を高く評価する。

佳作（学生の部）

沼津情報・ビジネス専門学校 高木 美穂（静岡県）

「色で測るカラーステッカー」

○審査委員長講評

細長いシールに定規を印刷したもので、下敷きやクリップボード、マグネットなどユーザーが好きなものに貼り付けて、簡単に定規を作ることができる。目盛りに加えて1センチごとに塗り分けた縞模様をつけたことにより、直感的に長さを知ることができる。15センチ分の15色を少数の色のグラデーションで表現することにより、誰にでも15の色調を明瞭に区別できるように工夫されている。

佳作（学生の部）

沼津・情報ビジネス専門学校 杉澤 彩（静岡県）

「思いやりポスター」

○審査委員長講評

車椅子の人や目の悪い人、妊娠中の人などに対して、車椅子を押してあげる、荷物を持ってあげる、ドアを開けてあげる、信号や危ない場所を教えてあげる、といった誰にでも簡単にできる手助けは、施設の整備とは違う「こころのバリアフリー」といって非常に低コストで効果的な方策である。しかし日本では、これがなかなか普及していない。本作品はこころのバリアフリーを分かりやすい図柄で啓発した連作ポスターである。相手の立場に立つてできることを考える、想像することを訴えるコピーの文言も、よく練られている。

佳作（学生の部）

芝浦工業大学 比江島 彬（埼玉県）

「Recocube」

○審査委員長講評

色づかいに配慮したゲームは毎年提案されているが、これまでルービックキューブの提案は少なかった。立方体の6面を6色で塗り分けたルービックキューブには人によって見分けにくい色が出てしまうが、本作品は「コマの中央部を明るくする」「コマの中央部を暗くする」というシンプルなグラデーションを追加することで、ルービックキューブのシンプルなデザインを維持しつつ、誰にでも明瞭に区別できる色づかいを実現している。

佳作（学生の部）

芝浦工業大学 竹谷 友希（埼玉県）

「Sencil」

○審査委員長講評

製図や絵画など、固さの異なる鉛筆を使い分ける作業では、「2B」や「5H」といった芯の固さをひとめで区別したい。現在の市販の鉛筆では、固さは軸の先端に小さな文字で書かれているだけだが、本作品はB系とH系で軸の色を分け、デザイン化されたストライプの本数で固さを区別することにより、使い分けを容易にしている。軸にはドット状の模様がつけられ、鉛筆を持つときの指の位置の指導に使うことを提案しているが、5ミリや1センチおきにドットをつけることで、簡易的な定規に使えるようにすることも考えられる。

佳作（学生の部）

山口芸術短期大学 曾田 夏未（山口県）

「防災システム手帳」

○審査委員長講評

様々な防災情報や防災対策のノウハウを、システム手帳のページの形にまとめた力作。非常時は携帯電話の電源がなくなったりすることを考え、敢えて印刷物の形にし、ページの入れ替えが容易なシステム手帳のリフィルにすることで、地域や生活形態に応じて必要な情報だけを持ち歩けるように工夫している。地域ごとに用意すべきコンテンツが膨大な種類になってしまうという流通上の課題を考えると、非常時の手回し充電器などが普及し始めていることも踏まえて、実用的にはスマホのアプリとして提供するのがよいかも知れない。